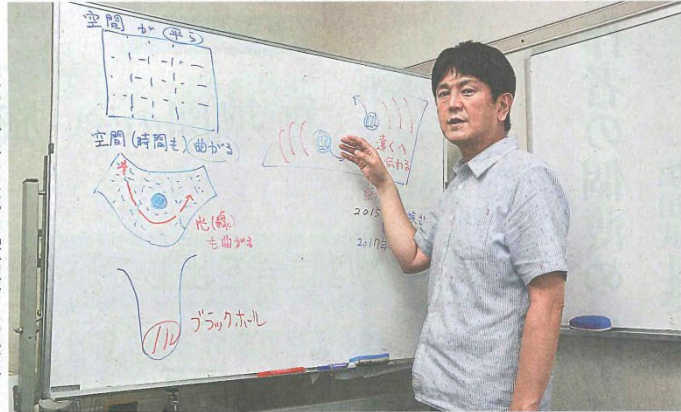


ノーベル賞の対象にもなった「重力波」について、
 かりやすく解説する浅田教授。弘前大学の研究室



弘前で宇宙の真理に挑む

弘大に「研究センター」

「無限に広がる大宇宙」などとよく言われるが、本当に無限なのかは現代でも実は分かっていない。宇宙を巡る未解決問題はそれこそ「星の数」ほどあるという。弘前大学に今年春、地方大には珍しい「宇宙物理学研究センター」が誕生した。気鋭の研究者たちが北の地で宇宙の真理に挑んでいる。(福士和久)

センターのメンバーは理工学部や教育学部に所属する6人。研究分野は、アイシユ(54)は重力レンズの研究で成タインが生み出したこと、果を挙げ、国内外の多くの論文に引用された。重力レンズは「相対性理論、宇宙から絶えず降り注ぐ放射線である」とは、大きな質量(天体)が「宇宙線、物質を構成する最小単位である「素粒子」背後からやってくる光を曲げ

浅田教授が選ぶ未解決の宇宙問題

- 宇宙に果てはあるのか
- 宇宙の始まりはいつなのか
- そして終わりはどうなるのか
- ブラックホールの縁(ふち)はどうなっているのか
- ダークエネルギー、ダークマターの正体は何か

「科学の面白さ」発信も

効果のことだ。一般相対性理論の正しさが証明された一例でもある。宇宙物理学の魅力について浅田教授は「分らないことが多く」と断言する。「『ええっ』と思われよう」と言っても、「面白いことを言っているな」となる。説明がうまくいったらOK」

相対性理論、ブラックホール、ビッグバン宇宙論。大胆な学説が後に学界の主流となった例は枚挙にいとまがない。

弘大・宇宙物理学研究センターは8月10日、宇宙のことを学びたい、宇宙に興味があるという人たちのために講演会を開く。ブラックホール研究の最前線の内容や、天文学を志した県内ゆかりの一人直蔵と前原実吉の物語などを高校生にも分かるように伝える。

来月10日に講演会

時間は午後2時～3時半。場所は理工学部1号館5階。参加は無料だが、事前申し込みが必要。定員100人。オンラインもある。詳細は弘大理工学部のホームページで。問い合わせは理工学研究科総務グループ(電話0172-33503)へ。

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。
 東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

【問合せ先】
 弘前大学理工学研究科
 E-mail:
 r_koho@hirosaki-u.ac.jp